

## 「解答例」

選抜区分	平成 31 年度 (選抜区分：推薦入試) 文学部 比較文化学科 (科目名：小論文)
問題 I	
問 1	
①	(標準的な解答例) リサイクルが追いつかないほど多くのプラスチック製品が生産されており、その結果多くのプラスチックごみが海中に投棄されている。その大半は微生物によって分解されないため海中に永久にとどまり続け、それによって鯨が投棄されたプラスチック製の網に絡まったり、プラスチック製の梱包用のバンドが海洋動物を殺したり、プラスチック製のストローやボトル・キャップを飲み込んだ鳥がえさを食べられなくなったりしており、また日光がもろくしたプラスチックを海が粉々にし、その結果海中や水中に蓄積したマイクロビーズのような物質を食べたことで魚が汚染されているため。
②	(標準的な解答例) 2017 年 12 月に、193 カ国の政府がプラスチックによる海洋汚染をなくすための国際連合の協定に署名をし、イギリスではマイクロビーズを含有する製品の製造が非合法化され、ルワンダは病院以外でのビニール袋やビニール包装を違法にし、スコットランドや台湾ではプラスチック製のストローが禁止された。また、アメリカ合衆国のいくつかの沿岸に位置する都市もそうした動きに追随している。
問 2	(標準的な解答例) インドのある会社では、プラスチック製に代わって、しょうが・にんにく・黒胡椒の風味の米や小麦が原料の食べられるスプーンを製造している。また、ハーバード大学のある科学者が考案した「ウィキセル」と呼ばれる包装資材は、チョコレートや果物、種子、ナッツから抽出した食べ物の成分からできている。こうしたことを筆者は、ごみを減らすための「おいしい方法」と述べている。
問 3	(出題の意図) 別紙

## 問題Ⅱ

### 問1 (標準的な解答例)

「多様な広がり」以前は主にヨーロッパの専門家が登録に関わっていたため、石や煉瓦の文化財の保護、材料保存という「モノ中心主義」だった。また、自然遺産は人の手の入っていない「厳正自然」だけが対象だった。それが日本、西アジア、アフリカなどの木造建築や土壁建築の場合のように、技術継承や工法が維持されているものも含まれるようになった。また自然も文化の一環という「文化的景観」の概念が導入され、棚田の場合のように、モノとしての棚田だけでなく、伝統的農業慣行など無形の文化が評価されるようになった。同様に産業遺産もモノよりも全体の仕組みに価値がある遺産や、20世紀建築のように今後変化が予想されるものや、国際協力が前提の複数の国にまたがる遺産も増えてきた。

### 問2 (出題の意図) 別紙